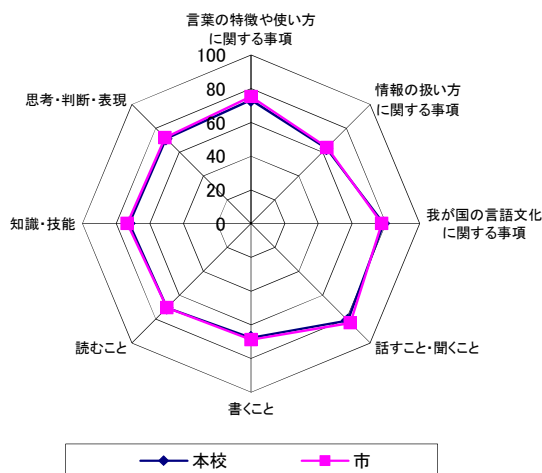


宇都宮市立姿川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 73.4 | 75.4 | 68.3 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 63.3 | 63.9 | 58.0 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 78.7 | 77.6 | 69.1 |
| | 話すこと・聞くこと | 81.2 | 83.2 | 81.6 |
| | 書くこと | 67.7 | 68.9 | 58.6 |
| | 読むこと | 70.5 | 70.5 | 65.7 |
| 観点別 | 知識・技能 | 72.4 | 73.4 | 66.2 |
| | 思考・判断・表現 | 71.3 | 72.2 | 65.6 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



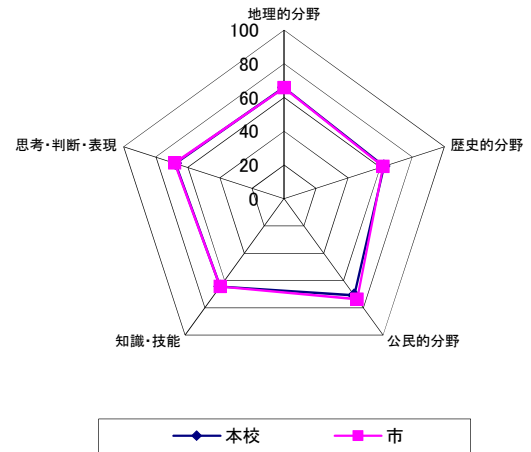
★指導の工夫と改善

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|--|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <p>平均正答率は、市よりも2.0ポイント下回っている。</p> <p>○漢字を正しく読んでいるかを問われている問題の正答率は市の平均を上回っている。</p> <p>●漢字を正しく書けているかを問われている問題の正答率は、市の平均を下回っている。</p> | <p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・書写の授業を通して、とめ、はね、はらいなどを意識させ、丁寧に漢字を書かせる活動を取り入れていく。</p> <p>・漢字テストを定期的に行い、今まで習った漢字を繰り返し復習していく。</p> <p>・漢字の読み書きを忘れないように、文章を書いたり、読んだりする時に、日常的に正しく使用させていく。</p> |
| 情報の扱い方に関する事項 | <p>平均正答率は、市よりも0.6ポイント下回っている。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉えているかどうかを問われている問題の正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章全体を整えているかどうかを問われている問題の正答率は、市の平均を下回っている。</p> | <p>・文章に含まれているいくつかの情報を整理し、情報同士がどのように結びついているかを図や表に表して内容を捉える活動を授業の中に取り入れていく。</p> <p>・資料から読み取れることを考えていく活動を定期的に取り入れていく。</p> |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <p>平均正答率は、市よりも1.1ポイント上回っている。</p> <p>○歴史的仮名遣いについて理解しているかを問われている問題の正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>●現代語訳を手がかりに古典を読むことができるかどうかを問われている問題の正答率は、市の平均を下回っている。</p> | <p>・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、繰り返し声に出して音読させる活動を取り入れていく。</p> <p>・基礎的な古語の意味を現代語訳と照らし合わせながら、理解させていく。</p> <p>・学校図書館司書と連携し、純文学や古典作品に関するブックトークを行い、作品に触れる機会を設けていく。</p> |
| 話すこと・聞くこと | <p>平均正答率は、市よりも2.0ポイント下回っている。</p> <p>●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話しているかを問われている問題の正答率は、市の平均を下回っている。</p> | <p>・話し合い活動の前に、自分の考えや根拠をじっくり考えさせていく。</p> <p>・分かりやすく伝えるためには、どのように話したらよいかを考えさせていく。</p> <p>・定期的話し合い活動を取り入れ、実践を積む機会を設けていく。</p> |
| 書くこと | <p>平均正答率は、市よりも1.2ポイント下回っている。</p> <p>○2段落構成で、自分の考えを明確にして書くことができるかを問われている問題の正答率は、市の平均とほぼ同じくらいで、全国の平均を大きく上回っている。</p> | <p>・自分の考えや立場を明らかにし、根拠や具体例をあげて書けるように、継続して指導していく。</p> <p>・資料から読み取ったことに対して、論理的に考えを書く活動を行っていく。</p> |
| 読むこと | <p>平均正答率は、市平均と同値である。</p> <p>○文学的な文章の内容を読み取れているかどうかを問われている問題の正答率は、市の平均とほぼ同じくらいである。</p> <p>●説明的な文章の内容を読み取れているかどうかを問う問題の正答率は、文学的な文章の正答率より低い。</p> | <p>・説明的文章では、論理の展開の仕方を意識し、筆者の主張や根拠を読み取ることができるように指導していく。</p> <p>・文学的文章では、人物の心情を読み取る際に、情景や台詞、登場人物の行動など、間接的に表れている表現を見つけられるように指導していく。</p> |

宇都宮市立姿川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 地理的分野 | 66.0 | 65.7 | 56.7 |
| | 歴史的分野 | 62.3 | 61.7 | 54.8 |
| | 公民的分野 | 70.9 | 73.8 | 73.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 64.4 | 64.5 | 59.5 |
| | 思考・判断・表現 | 67.8 | 68.2 | 55.6 |
| | | | | |



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

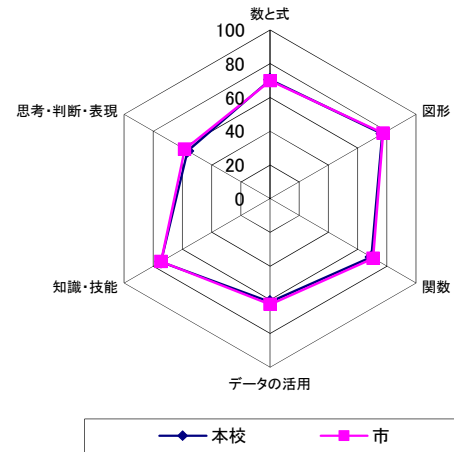
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|---|
| 地理的分野 | <p>平均正答率は、市より0.3ポイント上回っている。</p> <p>○日本の諸地域について、特色を理解し、短答問題において、市よりも5.5ポイント高い。</p> <p>○日本の諸地域の記述問題において、九州地方の農業の特色を資料から読み取ることができ、その結果、市よりも2.3ポイント高い。</p> <p>●日本の交通網の特色について、市の平均より2.6ポイント低い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料をもとに考察し、自分の考えをまとめる学習活動を各学年の発達段階に応じながら、今後も継続していく。 ・ICTを活用しながら、単元や節ごとの導入や振り返りを充実させ、自分の考えや意見を書く能力を向上させていく。 ・デジタル教科書などを利用し、視覚的に地理的事象をとらえられるように工夫していく。 ・小テストなどの実施により、基礎基本的な知識の定着を図っていく。 |
| 歴史的分野 | <p>平均正答率は、市より0.6ポイント上回っている。</p> <p>○古代までの日本について年代の表し方や世界の古代文明についての理解を問う問題では、市よりもそれぞれ5.5ポイント、2.5ポイント高い。</p> <p>●近世の日本について江戸幕府の対外関係における琉球の役割の理解を問う問題では、市よりも3.7ポイント低い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料をもとに考察し、自分の考えをまとめる学習活動を各学年の発達段階に応じながら、今後も継続していく。 ・ICTを活用しながら、単元や節ごとの導入や振り返りを充実させ、歴史的事象の原因や結果、影響、結びつきなどを総合的に捉えられるように工夫していく。 ・小テストなどの実施により、基礎基本的な知識の定着を図っていく。 |
| 公民的分野 | <p>平均正答率は、市より2.9ポイント下回っている。</p> <p>○新しい人権について問う問題では、市よりも1.7ポイント高い。</p> <p>●全体的に市よりも正答率が低く、特に憲法改正の手続きについてやフランス人権宣言について問う問題では、それぞれ3.8ポイント、9.5ポイント低い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日々のニュースや時事問題を取り入れながら授業を行い、世の中の出来事を身近な事として捉え、考えていく活動を取り入れていく。 ・ICTを活用しながら、単元や節ごとの導入や振り返りを充実させ、公民的な事象について、自分の考えや意見を書く能力を向上させていく。 ・小テストなどの実施により、基礎基本的な知識の定着を図っていく。 |

宇都宮市立姿川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と式 | 70.5 | 69.9 | 66.4 |
| | 図形 | 76.9 | 77.4 | 68.1 |
| | 関数 | 69.5 | 70.6 | 60.8 |
| | データの活用 | 61.3 | 62.7 | 54.2 |
| 観点別 | 知識・技能 | 74.7 | 74.6 | 70.3 |
| | 思考・判断・表現 | 56.4 | 58.4 | 43.3 |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

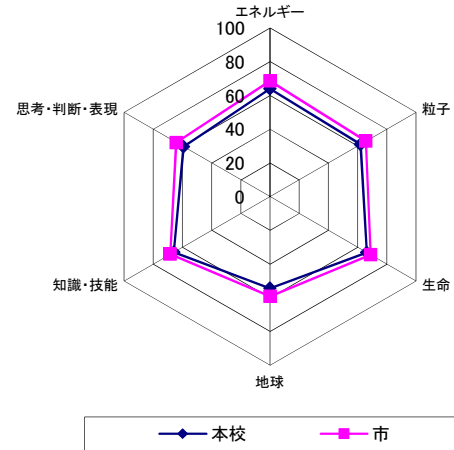
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|---|---|
| 数と式 | <p>平均正答率は、市よりも0.6ポイント上回っている。</p> <p>○基礎的な計算問題の正答率が全体的に高い。</p> <p>●文字式の記述問題で市よりも5.1ポイント下回っている。また、文章問題での連立方程式の立式の問題では、市よりも6.6ポイント下回っている。</p> | <p>・文字式の説明の問題では、解答の仕方だけではなく、そのように表現される理由や根拠なども問いかけながら、理解を深めていく。</p> <p>・文章から式を組み立てる問題では、文章の読み取り方、文字の置き方などについて、繰り返しの取り組みで定着を図っていく。</p> |
| 図形 | <p>平均正答率は、市よりも0.5ポイント下回っている。</p> <p>○移動に関する問題では、市よりも2.2ポイント上回っている。</p> <p>●作図の問題では、市よりも5.0ポイント下回っている。また、証明問題では、市よりも1.7ポイント下回っている。</p> | <p>・平面図形では、図形の性質や面積等の求め方、作図の方法などの基礎知識の定着を強化するため、授業中に繰り返し復習する機会を増やし、定着を図っていく。</p> <p>・合同の証明問題では、性質や条件などを身につけさせるとともに、条件などから逆算して等しい辺や角を見つけられるように、思考の流れを考える機会を増やしていく。</p> |
| 関数 | <p>平均正答率は、市よりも1.1ポイント下回っている。</p> <p>○比例、一次関数の応用問題の正答率が全体的に市よりも高い。</p> <p>●比例の値の変化では、市よりも3.7ポイント下回っている。また、xの2乗に比例する関数の問題の正答率が市よりも大幅に低い。</p> | <p>・式を立てたり、表やグラフにかき表したりすることなどを、単体ではなく関連付けることを意識させ、対応の特徴を見いだせるように授業を展開していく。</p> <p>・xの2乗に比例する関数では、一次関数との違いを意識させながら、定着を図っていく。</p> |
| データの活用 | <p>平均正答率は、市よりも1.4ポイント下回っている。</p> <p>○データの分布を読み取る応用問題の正答率が市よりも高い。</p> <p>●四分位範囲の比較の問題で、市よりも8.7ポイント下回っている。また、確率の問題ではどちらも市の平均を下回っている。</p> | <p>・データをグラフ等に表現したり、分析したりするにあたって、基礎となる箱ひげ図や四分位範囲等の知識の定着を図っていく。</p> <p>・状況に応じた確率の求め方ができるように、繰り返し復習をする機会を設けていく。</p> |

宇都宮市立姿川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | エネルギー | 64.0 | 68.7 | 63.6 |
| | 粒子 | 62.1 | 65.7 | 64.2 |
| | 生命 | 66.3 | 68.9 | 64.4 |
| | 地球 | 54.4 | 59.2 | 54.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 65.9 | 68.4 | 64.4 |
| | 思考・判断・表現 | 59.2 | 64.2 | 60.3 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

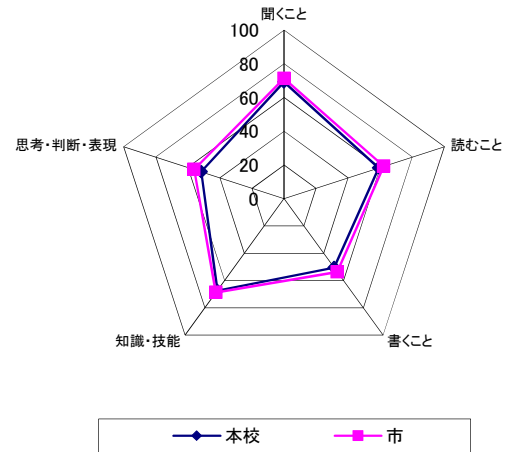
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| エネルギー | <p>平均正答率は市よりも4.7ポイント下回っている。</p> <p>●磁界の向きを変える方法を説明できるという問題の正答率は市よりも8.0ポイント下回っている。</p> <p>●記録タイマーの紙テープのはじめの部分を使用しない理由を理解しているという問題の正答率は市よりも6.7ポイント下回っている。</p> | <p>・日常的な現象を意識して考えることを身に付けさせていく。また、その現象がなぜ起きるのかを考え、そこから規則性や法則性を見出して、自分の言葉で表現し仕組みを理解できるような指導を繰り返していく。</p> <p>・基本の定着を図るため、小テストやAIDリルなどで繰り返していく。</p> |
| 粒子 | <p>平均正答率は市よりも3.6ポイント下回っている。</p> <p>○分解について理解しているという問題の正答率は市よりも2.1ポイント上回っている。</p> <p>●電流が流れる水溶液を指摘できるという問題の正答率は市よりも6.9ポイント下回っている。</p> | <p>・実験結果を的確に捉え、科学的な考察を考えられるように、日頃の実験の際にも考察の時間を確保していく。</p> <p>・基本となる化学式、イオンなどの定着を図るため、小テストやAIDリルなどで繰り返していく。</p> |
| 生命 | <p>平均正答率は市よりも2.6ポイント下回っている。</p> <p>○胚珠が種子になることを理解している。という問題の正答率は市よりも5.9ポイント上回っている。</p> <p>●実験の結果から、だ液のはたらきについて考察することができる。という問題の正答率は市よりも10.1ポイント下回っている。</p> | <p>・消化など自分の体についての意識を高めるため、日常の食事などを例に挙げ理解を深めていく。</p> <p>・基本語句など覚えるべきことを繰り返し確認することで、内容を理解するための土台を固めていく。</p> |
| 地球 | <p>平均正答率は市よりも4.8ポイント下回っている。</p> <p>○気温、湿度、気圧の観測記録について指摘できる。という問題の正答率は市よりも0.4ポイント上回っている。</p> <p>●花こう岩にはなく安山岩にだけ見られる特徴を理解している。という問題の正答率は市よりも8.7ポイント下回っている。</p> | <p>・火山噴出物の色とマグマの性質、火山の形、噴火の様子の全てが関連づいている仕組みを理解し、物事の関連性に注目できるような考え方を身に付けさせていく。</p> <p>・基本の定着を図るため、小テストやAIDリルなどで繰り返していく。</p> |

宇都宮市立姿川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 聞くこと | 69.2 | 71.2 | 65.4 |
| | 読むこと | 59.0 | 62.1 | 56.9 |
| | 書くこと | 50.6 | 53.8 | 42.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 67.4 | 68.8 | 64.7 |
| | 思考・判断・表現 | 51.7 | 56.1 | 45.8 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------|--|---|
| 聞くこと | <p>平均正答率は市よりも2.0ポイント下回っている。</p> <p>○聞いた内容を理解する知識技能の選択問題は、市よりも同じか高い。</p> <p>●要点をとらえる思考・判断・表現の問題は、市より低く、特に英文で答える問題は7.6ポイント低い。</p> | <p>・聞き取った情報をもとに、思考したり表現したりするなど、英語を運用する力を身に付けるために、ALTのパフォーマンステストなどを利用して自分の考えをまとめて発表する機会を増やしていく。</p> <p>・英語を聞いて英語で理解する習慣を身に付けるために、英語での指示や説明の後に日本語で補足しないようにしていく。</p> |
| 読むこと | <p>平均正答率は市よりも3.1ポイント下回っている。</p> <p>○予定表を見て人物の適切な発言を選ぶ問題で市より3.5ポイント高い。</p> <p>●ほとんどが市より低く、特にメールを読み、その内容を理解する問題で9.4ポイント低い。</p> | <p>・授業で定期的に単語テスト等を行い、基礎学力としての語彙力の強化を図っていく。</p> <p>・生徒が興味・関心を持てるような様々な内容の教材を用いて読解練習していく。</p> <p>・長文を要約する練習を取り入れていく。</p> |
| 書くこと | <p>平均正答率は市よりも3.2ポイント下回っている。</p> <p>○並べ替え英作文の過去進行形の問題で市をやや上回る。</p> <p>●ほとんどが市より低く、特に3文以上の英作文でスマートフォンの使用に対する考えや意見を書く問題で7.6ポイント低い。3割近くの生徒が無回答である。</p> | <p>・音では理解しているが、書くことができない単語が多いようなので、1年時のフォニックスの指導でつづりと音の関係をしっかり身に付けていく。</p> <p>・パターン練習で身に付けた文法知識を応用して、自分が言いたいことを表現する練習を継続的に行っていく。</p> |

宇都宮市立姿川中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---------------------------|---|--|
| 基本的な学習態度の定着 | 授業開始2分前着席、基本姿勢、返事、学習用具の準備、話の聞き方等、授業に向かう基本的な学習態度について指導している。 | 「授業の始まりには席についている。」の肯定的な回答の割合は、1年生は93.3%で市の平均を1.5ポイント下回っているが、2・3年生は96%以上で市の平均を上回っている。 「授業を集中して受けている。」の肯定的な回答の割合についても、1年生は80.6%で市の平均を約6ポイント下回っているが、2・3年生は89%以上で市の平均を上回っている。 |
| 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 | 各教科の授業において、話し合い活動や学び合い活動等の協働的な学習を意図的・計画的に組み込んでいる。 効果的な指導法を検証するため、授業力向上月間において、一人一授業(Chromebookを活用した授業を含む)を通して教師が互いの授業を参観し合い、授業研究会を行っている。 | 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定的な回答の割合は、全学年とも81%以上で市の平均を上回っている。 「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」の肯定的な回答の割合は、1年生は67.2%で市の平均を1.7ポイント下回っているが、2・3年生は市の平均を約1ポイント以上上回っている。 |
| 基礎・基本の確実な定着 | 「宇都宮モデル」を活用し、授業では「本時の目標」を提示し、めあてを達成するための効果的な指導法を工夫している。また、本時の「振り返り」を行い、自分の考えの変容を自覚する活動を行っている。 毎週水曜日をチャレンジデーとして、帰りの会で小テストを行い、間違えた問題のやり直しをするなど、基礎的事項の定着を図っている。 定期テスト前は学習相談室を実施し、基礎的・基本的事項の定着を図っている。 | 「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。」の肯定的な回答の割合は、1・2年生は市の平均を約3ポイント上回っているが、3年生は1.5ポイント下回っている。 「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している。」の肯定的な回答の割合は、全学年とも市の平均を約1～7ポイントの範囲で上回っている。 |
| 家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫 | 年度当初に「家庭学習の手引き」と自主学習ノートを配付し、自主学習ノートを毎日提出するように指導している。また、学習だよりでの啓発やベストノートの掲示をすることで、より効果的な学習の仕方について、意識を高められるよう指導している。 定期テスト前に「授業・家庭学習強化週間」を設定し、学習計画表を作成させ、学習時間を意識した家庭学習ができるように指導している。 放課後学習支援「SUGA1学習塾」を計画的に継続して行い、学習習慣を身に付けさせ、意欲的に取り組めるよう指導・支援している。 | 「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の肯定的な回答の割合は、全学年とも市の平均を約3～15ポイントの範囲で上回っている。 「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の肯定的な回答の割合は、1年生は市の平均を4.4ポイント下回っているが、2年生は市の平均を9.1ポイント上回っている。 家庭学習の時間について、「平日2時間以上」と答えている生徒の割合は、2・3年生は市の平均を3ポイント以上上回っているが、1年生は5.5ポイント下回っている。また、「ほとんどしない」と答えた生徒の割合は、市の平均と比べて、1年生は0.5ポイント、2年生は5.4ポイント、3年生は1.2ポイント下回っている。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

授業における基本的な学習態度については、国・県・市の調査結果からほぼ定着していると言える。しかし、学年によって定着が甘い部分もあるため、今後も一層の学力向上を目指し、次年度も継続して全クラス同一歩調で学習規律の徹底を図っていく。

国・市の調査結果から、基礎的・基本的事項の正答率は市の平均を上回っているものがあるが、活用では下回り、記述式で解答することに課題が見られる。次年度は各教科における言語活動を一層充実させ、授業において自分の考えを表現し学びを深める活動を意図的・計画的に組み込むことにより、生徒の思考力、判断力、表現力を高めるための指導の工夫と改善に努めていく。また、「宇都宮モデル」(はっきり・じっくり・すっきり)を基に「めあて」・「振り返り」をより一層意識した授業を行うことで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していく。

基礎・基本の確実な定着のために、チャレンジデーやSUGA-1塾、学習相談室を計画的に実施し、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。さらに、次年度はチャレンジデーでAIドリルを使用することにより、学習習慣を身に付けさせ、学力向上につなげていく。

また、「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」についての肯定回答割合は全学年とも市の平均を上回っているが、自主的かつ計画的に学習に取り組む意識が弱い。そこで、次年度も継続して、学習計画表の有効活用や家庭学習の仕方について指導することにより、家庭学習時間の確保と学習内容の質の向上を図っていく。

「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」についての肯定回答割合は、全学年とも91%を超えている。一人一台端末の導入により各教科等の授業においてChromebookを積極的に活用するなど、導入当初から取り組んできた「SUGAスクール」の取組の成果であると考えられる。次年度もICT機器を効果的に活用した授業や活動の推進に努めていく。